

警鐘を、北海道大学総合博物館助教の小林快次さんから講演をいただきました。

この講演会の中で、小・中学生が「恐竜が進化を続けたように、人間も進化を続けられますか」、「地球温暖化が続くと人間はどうなってしまうのでしょうか」など、核心に迫った質問をする熱心な姿には感動させられました。



▲質問する小学生

のぼりべつ環境カレンダー を作製しました

今年7月には、豊かな自然に恵まれた北海道の地で『北海道洞爺湖サミット』が開催されます。

市内にも風光明媚な景勝地がたくさんあるので、自然風景をテーマにした『のぼりべつ環境カレンダー』の作製に取り組みました。

この環境カレンダーには、公募し



▲のぼりべつ環境カレンダー

た写真と小学生による環境標語を掲載しています。

応募された写真を見ると、普段何げなく眺めている山や川などが、四季折々にいろいろな顔をのぞかせることに気が付き、あらためて自然の豊かさを実感しました。

小学生から募集した環境標語は、視点がすばらしい作品ばかりで、学校での環境教育の取り組みの高さや子どもたちの感性には感心させられました。この標語には、828点の応募があり、クリンクルセンターに展示していますのでぜひご覧ください。

北海道洞爺湖サミットを契機に

国は、7月に開催される『北海道洞爺湖サミット』を『環境に優しいサミット』と位置付け、徹底的に環境に配慮したサミットの運営を行うこととしています。

わたしたちは、開催地の住民として世界各国から集う方々が、開催期間中に快く滞在できるように地域の美化など、できる限りのことに取り組みたいと思います。

そして、このサミットを契機に、わたしたちが自分の生活を見つめ直し、環境を保全するため自分にできることは何かを考え、できることから取り組むことが、かけがえのない地球の環境を守り、後世に引き継ぐことになるのではないかと思います。

生活の中に 地球温暖化防止のヒント

二酸化炭素の北海道全体の排出量は年間約2千47万トになります。

北海道全体の排出量のうち家庭からの排出量は20・5%を占め、平成15年度の道民1人当たりの排出量は、全国平均の約1・3倍にもなりました。北海道は冬期間、暖房用のストーブなどを使用するため、全国平均と比べて割合が高くなっています。

家庭から排出される二酸化炭素は、暖房のほかにも、電気やガソリン、水道、ガスの消費などがありますが、燃やせるごみの焼却も影響します。ですから、暮らしの中でのごみと少なくなることに繋がります。

そこで、わたしたちにできることは、環境省が提唱している『1人・1日・1kg CO2削減運動』（ホームページ <http://m.iscc.jp/ty-1kg/mb-co2-1kg02.html>）に例示されているような行動がヒントになると思います。

地球温暖化防止活動のヒントが、自分の身の回りにあることに気付けば、やがては大きな成果に結びつくでしょう。

* *

全国地球温暖化防止活動推進センターで作成した『家庭でできる温暖化対策』を31日に掲載しています。切り取ってご活用ください。

環境を守ろう！ 子どもたちからの メッセージ

- 節約し みんなで止めよう 温だん化
 - リサイクル ゴミの分別 守ろうね
 - 木を植えて 森林はかい ふせごうよ
 - 食べ残し してはいけない ゴミになる
 - 温だん化 北きよく熊は 泣いてるよ
 - クリンクル みんなのゴミを リサイクル
- 依田 陸生君 (鷺別小4年生)
 大久保和哉君 (若草小4年生)
 成田 未知さん (富岸小6年生)
 古林 基君 (青葉小4年生)
 川田隼太郎君 (幌別小5年生)
 津田 美咲さん (幌別東小4年生)
 草替 一真君 (登別小4年生)

※環境標語を6回に分けて紹介します。
 ※環境標語は、3月31日(月)までクリンクルセンター(2階)に展示しています。どうぞご覧ください。

問い合わせ

環境対策 グループ

(クリンクルセンター内)

☎2958